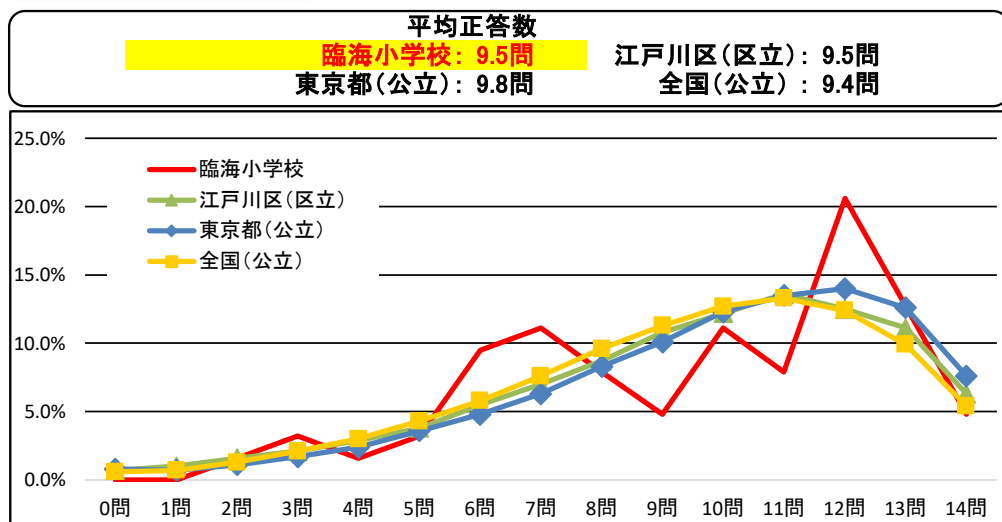


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】江戸川区立臨海小学校

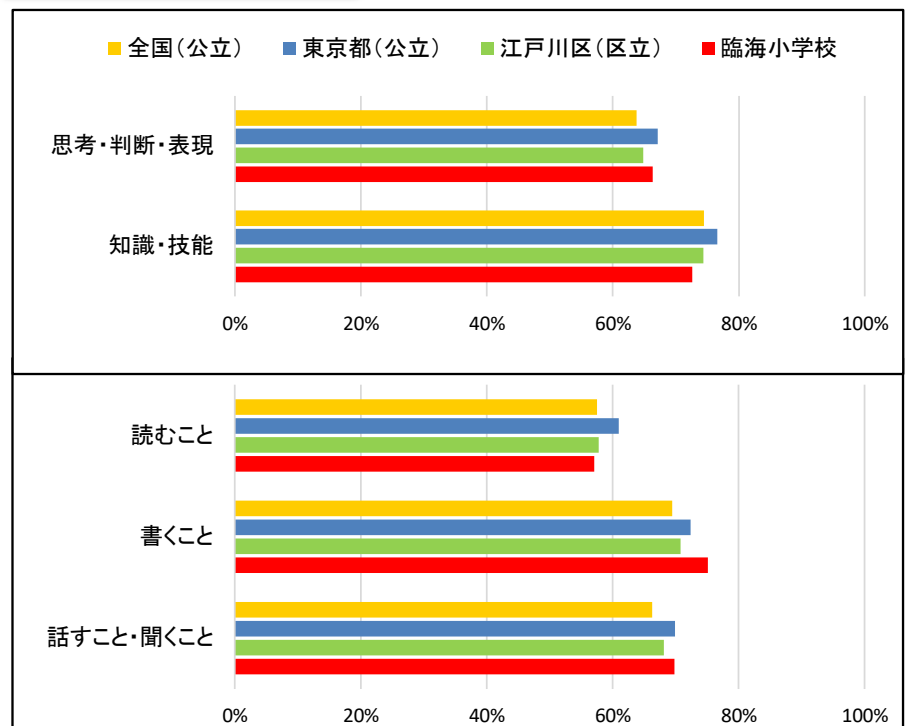
正答数分布



【平均正答率の差】

臨海小学校	68%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	-2.0

「領域別」の結果

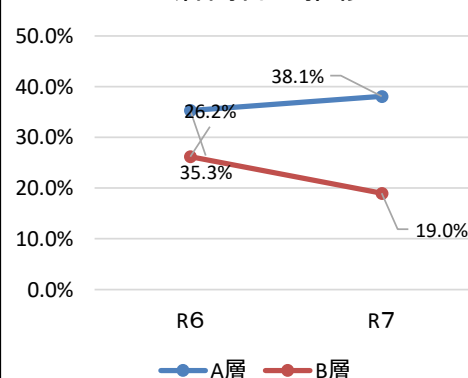


四分位における割合（都全体の四分位による）

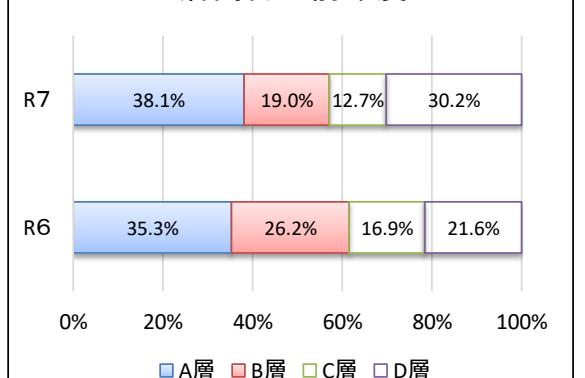
国語	上位 ← 下位			
	A層 12～14問	B層 10～11問	C層 8～9問	D層 0～7問
臨海小学校	38.1%	19.0%	12.7%	30.2%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

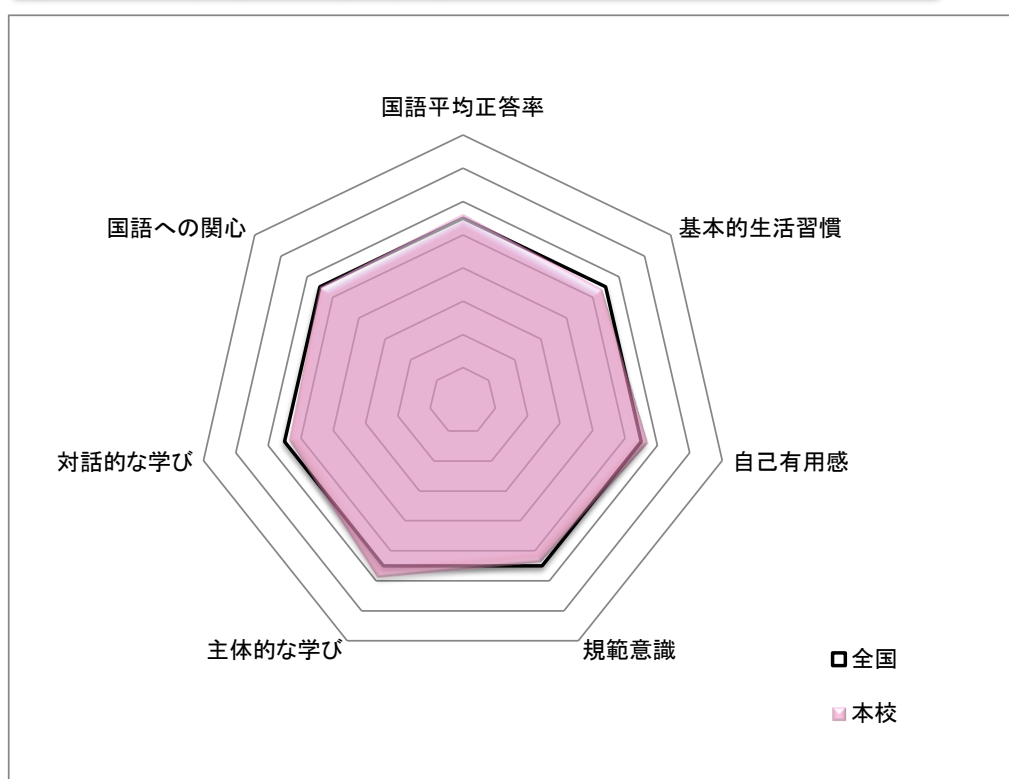
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

・今年度の学力調査の結果から国語の平均正答率を全国と比較すると全国が66.8%、本校が68%で、本校が全国を1.2%上回った。基礎的基本的な学力が身に付き、意欲的かつ主体的に学びをすすめていることが分かる。

《家庭・地域への働きかけ》

・学力調査の結果から個々の学習状況を把握し、習熟が不十分な部分について電子ドリルを活用した「江戸川っ子study week!」を推進し、補充学習を進める。
・家庭に情報を提供し、連携を図る。
・学校ホームページを活用し、結果や学校での取り組みを公表し協力を仰ぐ。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

・本校のAB層の割合は、A層が38.1%、B層が19.0%で、AB層合わせて57.1%と過半数を超える結果となった。全国の平均値53.7%を3.4%上回り、都とは同等だった。特にA層の値が高く、全国、都、区のすべてにおいてポイントが上回っている。領域別に見ると思考力・判断力・表現力等が全国の平均正答率を上回った。基礎的な知識や技能を身に付けており、文章を読み取り自分の考えを明確に書く力が付いていることが分かる。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

・読書科の充実を図り、探求的な学習を進める。
・校内研究を通して、授業力向上に努め研鑽を積む。
・個別最適・協働的な学びを進めるための視覚的に捉えやすい「ICTの活用」を行う。

・基礎学力の保障

・新聞記事を活用した「よむYOMUワークシート」を活用し、文章を読み解く力を育む。
・学校図書館を活用し読書の習慣を身に付け、語彙力や文章読解の基礎力を培う。

・学習習慣の確立

・一人1台端末を使って、日常的に「ミライシード」を積極的に活用する。
・各学期に1回1週間ずつ「江戸川っ子study week!」を実施する。

・AB層の育成

・本校のAB層の割合は、過半数を超える結果となったが、領域別に見ると知識及び技能「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」が全国平均正答率から7.1%と下回った。漢字を文の中で正しく使うことができるよう「へん」や「つくり」からなる漢字の構成や成り立ち、意味理解を深めることに重点を置く。